

大阪府立園芸高等学校

ミツバチ嗜好香気成分の代用花粉への添加研究
 —花粉荷の香気成分分析によるミツバチが好む香りの特定と利用—



ミツバチが好む餌を開発する

失敗しても経験を重ねることが大切

大阪府北部の住宅地にある大阪府立園芸高等学校は、大阪の府立高校では最も広い約11haの敷地面積を有する。

同校のハニービーサイエンスクラブは、その名の通りミツバチに関する研究を行う部活動だ。「都市型小規模養蜂」全般についての研究を始め、最近ではミツバチが好む香り成分を添加した、より給餌効果の高い代用花粉(ミツバチの餌)の開発に取り組んでいる。

コンテストなどでも豊富な受賞歴を持ち、3年生の福井心さんは、研究発表を通して「人前で話すことが苦手でしたが、以前より堂々と意見を言えるようになりました」と話す。担当の尾崎幸仁教諭は「失敗してもいいから、経験を重ねることが大切だと考えています」と話す。



園芸高校ハニービーサイエンスクラブの部員たち



保育園でのミツバチ体験風景(2019年実施風景)



ミツバチの花粉団子を選び分ける地道な作業が続く

調べれば調べるほど面白い

経験という点で言えば、最初はミツバチを怖がっていた生徒も「すぐに虫全般を嫌がらなくなりましたし、『こんな花にもミツバチが来ていた』と、普段から自然に対して観察の眼を向けるようになりました」と尾崎教諭は言う。福井さんも「調べれば調べるほど、ミツバチやミツバチが利用する草花の魅力がわかって面白い」と話す。

とはいえ、去年からはコロナ禍で思い通りの活動ができず、部員たちは「ミツバチに触れる時間が少なくて物足りません」と嘆く。近隣の保育園に赴いて実施していたハチミツ絞りの出前授業も中止になった。それでも、「行けないなら来てもらおう」という発想の転換で、現在校内に園児用のヒマワリの迷路を作製中だ。尾崎教諭は「これも状況次第でどうなるか……」と心配しつつも、今やれることをやろうとする部員たちの姿勢に頼もしさを感じているようだった。

(個別助成)



採れたてのハチミツが味わえるのは活動の楽しみのひとつ



●実施担当

尾崎幸仁 教諭

●活動のモットー

「生徒がやりたいことには反対しない」「やってみなければ始まらない」という考えから、そのための環境づくりに注力することを心がけている。

学校概要



フラワーファクトリ科、環境緑化科、バイオサイエンス科を設け、社会や産業の発展に貢献できる人材の育成を目指す実業伝統校

設立:1915年
 生徒数:600人
 所在地:池田市八王寺2-5-1

この活動は、中谷医工計測技術振興財団の「科学教育振興助成」により行われています。



公益財団法人

中谷医工計測技術振興財団 〒141-0032 東京都品川区大崎1丁目2番2号 アートヴィレッジ大崎 セントラルタワー8階

シスメックス株式会社創立者の故・中谷太郎氏が私財を投じて設立。医工計測技術分野の発展を願い、「中谷賞」をはじめ各種研究助成、若手研究者支援や国際交流事業を展開。さらに、すそ野拡大のため、科学教育振興活動などに対し、幅広い助成事業を行っています。

中谷財団

検索